

# 災害記録を読む

■会 期 平成24年11月17日(土)～平成25年1月20日(日)  
■休館日 月曜日・12月28日～1月3日・1月15日(火)

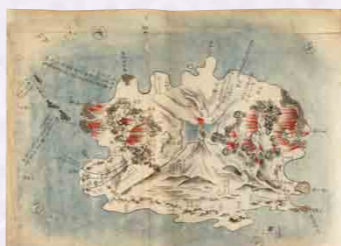
地震・津波・洪水・高潮・早魘・大火災・火山噴火――有史以来、日本人はさまざまな自然災害に幾度となく遭遇し、これを記録してきました。その被害の過酷さ、人々の悲しみと絶望、復興のための苦難、何事もない日々がありがたと常日頃の心構えの大切さ。こうした災害記録には、先人たちの「同じ苦しみを繰り返さないために」という真摯な願いが込められています。今こそ、こうした先人の声を読み直し、その教訓に学ぶ時ではないでしょうか。



水害 「安政風聞集」



地震 「鴨長明方丈記」



噴火 「桜島噴火記」

■展示解説  
※予約・料金は不要です  
12月22日(土) 13時30分～  
場 所 2階企画展示室  
解説終了後(14時30分頃)に地震避難訓練と非常食の試食会を行います。

## こんな本があった!

～岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展10～

■会 期 平成25年1月26日(土)～3月31日(日)  
■休館日 月曜日・2月12日(火)

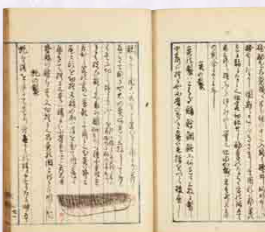
文庫開設以来初めての悉皆調査(全資料調査)も13年目に入り、中間報告展示もいよいよ10回目となりました。今年も調査の過程で次々と出逢えた珍しい本たちをご紹介します。ぜひご覧ください。



ぐるぐる渦巻き状に書かれた不思議な系図  
「松平系図」



明治の国学者・池田義象先生、フランスのトイレに驚く  
「見聞雑録」



食いしん坊さんがプロの味を得て記したお料理レシピ  
「意地喜多那志」

■展示解説

2月9日(土) 午後1時30分より 2階企画展示室  
※予約・料金は不要です。

■特別講座

「今年度の調査からわかったこと Vol.10」  
講 師 塩村耕 氏  
(名古屋大学大学院教授・岩瀬文庫資料調査会長)  
日 時 3月16日(土) 午後1時30分より  
場 所 地階研修ホール 定 員 70名程度  
※予約・料金は不要です。  
※定員を超えた場合、別室でモニター画面をとおしてのご聴講になることがあります。



## 第七回にしお本まつり 文芸コンクール 入賞作品

10月27日(土)・28日(日)に開催された第七回にしお本まつり「文芸コンクール」の入賞作品です。今年も西尾市内はもとより、岡崎市・碧南市・高浜市・知多郡・湖西市など、遠方からも多数の作品をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

※敬称略

〈俳句部門〉

◎最優秀賞

応募作品 150句

ボケツトにみすゞの詩集秋茜 (知多郡武豊町) 関 英治

◎入選

図書館を出てひと休み藤は実には (碧南市) 杉浦 小冬  
図書館へ母子の通う落葉道 (幸町) 吉見 ひで  
和綴本繰る指先に秋日射す (駒場町) 信川 芳枝  
絵本より図鑑好きな子小鳥来る (大給町) 池田あや美  
行く秋や久女句集の借りしまま (花蔵寺町) 三浦 貞葉

秋ともし閲覧室の列につく (下羽角町) 濱嶋 君江

図書館の紅葉明りの窓辺かな (八ッ面町) 谷 保夫

〈短歌部門〉

◎最優秀賞

応募作品 69首

まだ本の読める幸せ嬉しくて燈下親しやルーペを座右に (上羽角町) 金子あきえ

◎入選

母のメモ見付け聖夜の料理本染みにもなつかし香の潜みをり (和気町) 犬塚 房江  
園児等に読んで聞かせる物語保育士の声 若く伸び伸び (米津町) 沢戸美代子  
手に取れば少女の頃にもどれそうファンタジーの本 妖精の挿絵 (上羽角町) 乙部 妙子  
本棚に冷たき冬日ほめきて源氏物語の吐息聞こゆる (米野町) 長谷きよ子

〈川柳部門〉

◎最優秀賞

応募作品 73句

読み聞かせわが心にもしみわたる (緑町) 小川 美穂

◎入選

老女今漫画に嵌り生返事 (米野町) 長谷きよ子  
いざ行かん夢が広がる本の旅 (中町) 天城 美乃  
古希なんぞまだ青春だと本が云う (住吉町) 松川 勝弘  
ほんよむとたのしいことがうかびだす (緑町) 高原 怜愛

【西尾文化協会文芸部 撰】

### 蔵書紹介

#### 「『豆州下田』温泉名所記」

(子一四〇) 一冊

泰平堂静治 嘉永七(一八五四)年版 縦54cm・横75cm

紅色の題箋に「『豆州下田』温泉名所記」と記された、八つ折に畳まれた資料です。一枚に開くと、横長の美しい多色刷り絵地図になっています。右下の解説文に、熱海・修善寺・湯河原などの有名どころ以外にも伊豆にはいくつも名湯ありとしてその名を列挙。さらに下田湊から伊豆七島への里程を示し、「式根島に温泉ニヶ所あり。万病によし」などと、周辺の名湯を紹介しています。山や海に囲まれた、刷りもきれいな風景図と相まって、のどかな温泉案内の体裁です。

しかしよく見ると、温泉案内には似つかわしくない不穏なものも描かれています。画面中央からやや右下寄り、「すさり鼻」の沖合いに、外輪船の黒船三艦と、砲筒あるいは望遠鏡のようなものを搭載した手漕ぎボート一艇の姿が見え、その脇に「此所異国船風待、六月二日不残退船」との注記があります。それに気づいて絵地図を見直すと、玉泉寺の「異人のはか(黒船乗組員五名の墓)」はじめ、点在する「遠見小屋」や、「小田原持(小田原藩所管)」「沼津持」「掛川持」と記された警固所など、海岸線を取り巻く物騒なものが見てとれます。

この絵地図、一見なんの変哲もない名所案内を装いながら、どうやら嘉永七(一八五四)年のペリー率いるアメリカ艦隊の下田来航時の様子を描くことが真の目的であると思われまふ。となると、版元の「泰平堂静治」という名も、洒落のきついペンネームだと見た方がよさそうです。



表紙の写真。一見何の変哲もない、伊豆は下田あたりの名所案内かと…。



沖合いの黒船艦隊(拡大)

## くずし字を読んでみよう その3

次によくあるご質問は「くずし字を読む時に必要な用具は何ですか?」というものです。ではまず必須のものから。  
●筆記用具…鉛筆がおすすめです。場所(所蔵機関)によってはシャープペンシル不可場合があります。ボールペンや万年筆などのインク類は使いません。  
●縦書きの原稿用紙  
●くずし字事典…図書館や閲覧室などでも借りられますが、気づいたことなどを次々書き込んで自分だけの特別な辞書に鍛え上げていった方がよいので、できれば自分の物を備えましょう。

続いて、あると便利なもの。  
●ルーペ…細かい字や、筆の重なり等を確認するとき。  
●文鎮…資料を押さえるのに。面取りがしてあるもののがおすすめ。  
●計算機…度量衡や、年数などを計算するとき。  
その他、資料調査に出かける際には、メジャー(金属製でないもの)・年号対照表、国語辞典、漢和辞典なども用意しましょう。

